

# 大城ひかるのベトナム



## 通信

-22-

シンチャオ  
(Xin chào)  
おきなわ



ホーチミンの通勤時間帯はすき間がないほど交通量が増し、バイクを足でこぐドライバーも(筆者撮影)

深夜3時のことでした。突然、外で大音量の演奏が始まったのです。「葬式だ」とピンときました。ドラムやクラリネットの楽隊が通りを練り歩いているようで、演奏は十数分ほど続いた

後、ピタッと止まりました。聞こえている間も怖かったのですが、急に訪れる静寂の何と恐ろしいこと。次は何が起こるか、暗闇の中、タオルケットでしっかり体を包み込みました。しばらく外の様子をうかがっていましたが、何も起こりませんでした。そのうち、また寝てしまったようです。翌日、近所に住む同僚に聞いたところ、やはり葬式とのことでした。演奏は亡くなった人があの世に行くとき寂しくないようにという計らいで、同時に大きい音が遺族の悲しみを癒やすのだそうです。ベトナムは土葬が一般的で、楽隊の演奏は死者を墓に連れて行くときになくてはならないも

## ホーチミンは騒音とともに

のと聞き、亡くなった人を運んでいると知ったら、ちよつと気味が悪くなりました。このようなことが年に2-3回、時には早朝に行われます。他国の通過儀礼をどやかくいうつもりはありませんが、何度経験しても慣れるものではありません。これに限らず、ホーチミンに住むなら騒音には寛容でなければなりません。国連の調査によると、ホーチミンは東南アジア第4位の騒音都市だそうです。昼夜を問わない大音量のカラオケ、12時過ぎてもスピーカーから流れてくる飲食の移動販売、大声での飲み会など市民ならいくつもあると思います。

しかし、私にとってこれらは我慢の範囲内。最も気に障るのは車両のクラクションです。

日本ではどんなに渋滞していてもクラクションを聞くことはそうそうありません。一方、せつかな国民性として知られる韓国ソウルや、多民族都市ニューヨークのクラクションは有名です。しかし、おっとりした人が多いホーチミンで、クラクションの音を聞かずに生活できないのはどういうことなのでしょう。

ベトナム人同僚に聞いてみたら、クラクションは「後ろ(や横)から来るから注意してね」の合図だそうです。確かにソウルやニューヨークとは異なり、ホーチミンでは渋滞で止まっている間、クラクションを鳴らす人はいません。動き出した途端、あちこちで鳴り出すのです。交通量が多

く、特にバイクとバイクの車間距離が著しく短いので、「注意して」と鳴らすようです。日本のように交差点へ進入する際の一時停止がないのも要因の一つではないかと私は考えているのですが、T字路ではバイクは止まらずにクラクションを鳴らして突っ込んできます。大きな交差点はラウンドアバウトが多いので、左右前後、鳴らし合うというわけです。

先日バスに乗ったときのこと。運転手がずっとクラクションを鳴らし続けバス停も通り過ぎてしまいました。他の乗客が大声で伝えてくれたおかげで、私は200mほど先で降りることができたのですが、どう見てもあれは「注意してね」ではなく「どけどけ」です。俺様気質の人はどこにでもいるようです。